

東京 iCDC 運営委員会（第 4 回）議事録

日時：令和 3 年 2 月 9 日（火） 17 時 30 分～18 時 30 分

場所：第 1 本庁舎 4 2 階特別会議室 A

出席委員：賀来委員長、大曲副委員長（web）、神谷委員（web）、奈良委員（web）、猪口委員（web）、角田委員（web）、小竹委員（web）、山川委員

出席委員（都）：梶原委員、小林委員、吉村憲彦委員、田中委員、齋藤委員、矢沢委員、成田委員、高橋博則委員、武田委員、杉下委員、加倉井委員、吉村和久委員

その他出席者：森村尚登氏（web）

オブザーバー：吉田真紀子氏（web）、高橋千香氏（web）、渡部ゆう氏（web）

議事 1 東京 iCDC の活動状況について

（東京都より）

- ・ 資料 1 の説明

（森村尚登氏より）

- ・ 資料 2 の説明

（賀来委員長より）

- ・ 資料 3 の説明

（賀来委員長）

- ・ 現在 7 チームが活動しており、それぞれのテーマで活動を続けている。
- ・ その中で、特に宿泊療養施設／入院判断フローについては、医療体制が逼迫している現状を踏まえて、宿泊療養のさらなる活用を進めるため、タスクフォースでさらなるフローの見直しの検討を行っている。タスクフォースの座長でおられる森村教授より御説明いただきたい。

（森村尚登氏）

- ・ タスクフォースを 12 月に 1 回、1 月に 2 回、計 3 回開催し、COVID-19 患者の方の療養／入院判断フローに関する改定について検討を行った。
- ・ 今回の陽性者の急増に対応する形で、宿泊施設療養の運用経験が重ねられているということも踏まえて、宿泊施設療養の選択肢、基準の対象者を少し広げるということを議論した。
- ・ 65 歳以上から 70 歳未満の患者の入所要件について「基礎疾患なし」に加え、「認知機能に大きな問題がないこと」の要件は継続しながらも「高血圧の治療中で薬剤の内服等で安定かつ薬持参可能」の患者を受け入れるよう見直しを行った。

- ・ 判断フローへの自宅療養の追加についても、リスクのない方や無症状の方々は自宅療養を選択肢として入れることについて検討を行った。
- ・ 宿泊施設でも英語を含む 11 か国の言語で対応可能になるなど、実際の運用に沿って、検査から入院までの各対応段階におけるフローの改定を行っている。

議事 2 東京 iCDC の今後の活動について

(東京都より)

- ・ 資料 4, 5 の説明

(賀来委員長より)

- ・ 資料 6 の説明

(賀来委員長)

- ・ 東京 iCDC 最後の専門家ボードとして人材育成チームを設置したい。
- ・ 人材育成チームでは、新型コロナウイルス等の感染症対策を担う人材を安定的に確保するため、専門家、行政機関、地域など、様々な組織における人材育成プログラムの作成などの検討を行っていく。
- ・ 東京 iCDC が今後検討を深めるべき点や東京 iCDC が向かうべき方向性について、現在の感染状況について幅広く御意見をいただきたい。

(奈良委員)

- ・ 感染者数が減ってきており、恐らく行動が緩んでいくことが懸念される。
- ・ これまで 1 年間都民の皆さんは辛抱を続けていらっしゃるので、いかにこのタイミングでその辛抱を続けていただくようなメッセージが出せるかというのがリスクコミュニケーションでは大事なことだと認識している。
- ・ 現在、緊急アンケートを準備しており、都民の皆さんがどこで持ちこたえていらっしゃるのかといったことを把握する。

(猪口委員)

- ・ iCDC の今後の進め方の計画はしっかりとしたものとなっていると思った。
- ・ 今後、入院患者数が落ち着いてきて、急性期病院から回復期等に連携していくに当たり、回復期の退院基準は今のままで大丈夫なのかエビデンスの提示を iCDC にお願いしたい。
- ・ 院内感染対策に関しても、なるべく早めに、簡易なものでもよいので、講習会を開催し、レベルを底上げしたほうがよいと考えている。
- ・ 医療提供体制タスクフォースは動いているが、医療提供体制は抜本的にこういう形でいいのかどうかということを考えることも是非検討いただきたい。

(角田委員)

- ・ 今、感染者数が減ってきた段階で、いつまで自粛をするか。
- ・ 今の時期に「これからこのぐらいになったらこうなる」ということを明確に都民に伝えることが必要と感じている。

(賀来委員長)

- ・ 退院基準については、C t 値だけではなく、例えばウイルス分離なども含めた基準や臨床的に退院しても2次感染を起こさないというエビデンスがしっかり取られていくということが非常に重要だと思っている。
- ・ ボードや新たなタスクフォースについても、専門家ボードの中でいろんな先生方をお願いして対応してまいりたい。

(奈良委員)

- ・ 今、都民の関心の大きなものの一つとして、ワクチンがある。
- ・ ワクチンについて、メッセージを出せることができればよいと考える。

(森村尚登氏)

- ・ 入院の陽性者数は減っても、医療提供体制はまだ危機的な状況が続いている。
- ・ 患者さんの状態が中等症、軽症となってきた際のフローを円滑にする必要があるが、受皿となる後方病院の懸念が残っている。
- ・ その懸念を払拭するためにも、退院基準によるエビデンスの提示をお願いしたい。
- ・ 医療提供体制タスクフォースについては、今後も様々なことを検討していくが、もう一つ、大枠を考える医療提供体制の全体を俯瞰することについて検討いただきたい。

(賀来委員長)

- ・ 本日は活発な御議論いただき、貴重な御意見をいただいた。
- ・ 本日の御意見を含めて、東京 i C D C の体制の整備と機能強化に向けて、今後も取り組んでまいりたい。
- ・ 次回の運営委員会については、後日、事務局より日程調整について御連絡をさせていただく。